

実家を たたむ

親や親戚が介護施設に入ったり亡くなったたりして空き家となり、放置される家が増えている。空き家の数が過去最多となり、維持管理を十分にできないままに、地域の景観や安全を脅かす存在になる。実家が空き家になった時、どうしたらいいのかを考える。

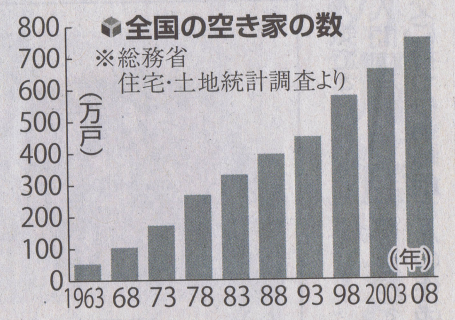
〈上〉

「思い出の詰まった実家だったんですが、仕方がありません」。埼玉県に住む望月侑子さん(73)は昨年、愛知県新城市の実家を売り出した。名古屋から車で南東へ2〜3時間。板張りの壁に広い土間がある古民家が、山の緑に埋もれるようにして立つ。

戦後すぐ父親を亡くし、祖父母が暮らすこの家に移り、10代半ばまで過ごした。40年前に祖父が亡くなり、結婚して東京で暮らしていた望月さんが家を相続。毎年、夏休みには夫が車を運転し、子どもと数週間滞在し、屋根の修復や草刈りなどをして大切に管理してきた。

ところが、夫が認知症となって車を運転できなくなり、4年前からこの家に通えなくなった。管理は地元友人に頼んでいたので、固定資産税や草刈り代などの維持費に年間5万円以上かかる。「年金生活では負担が大きい」と感じ、手放すことにした。

維持費かけ……持て余し売却



子どもや親戚に譲ろうとしたが、「管理できない」と断られた。幸い、実家は間もなく、知人に紹介された不動産会社を通じ、古民家暮らしを望む若者に約200万円で売れた。「もし、売れなかったら維持費を払い続け、家を朽ち果てさせただけ。ぞっとします」

望月さんのように誰も住まなくなった実家を持て余す人は多い。戦後の高度成長期に都市部に移り住んだ世代が、実家に住む親の死に直面したり、自らも介護が必要になったりして、実家の管理が十分にできな

なっているからだ。実際、空き家は年々増え、総務省の2008年の調査では全国の住宅(5759万戸)のうち、空き家は13.1%(757万戸)で過去最多。ところが、交通手段など基盤整備に乏しい地方を中心に空き家の買い手や借り手が見つからず、長年放置されたまま社会問題化するケースもある。

こうした状況を受け、近年、空き家管理を請け負う業者も出てきた。福岡市で不動産会社を営む大橋秀克さんは、今夏から、月1万円程度で同市や近郊の住宅地の空き家の管理代行を請け負う。ほとんどの依頼が、遠方に住む子どもが、親の死や介護施設入所などで空き家となった実家の扱いに困っているケースだという。

空き家管理の業者も登場

が籠もって傷みが早い。そこで大橋さんが定期的に空き家を訪れて窓を開け、風を通す。さらに、庭に生い茂った樹木や雑草を刈り込み、側溝の落ち葉を片付け、放っておくとスズメバチが巣をつくったり、水たまりに蚊が発生したりして近隣に迷惑をかけるという。「地域の安心のために、きちんと管理する必要があります」と大橋さんは話す。「田舎の家のたたみ方」という著書があるジャーナリストの三星雅人さんによると、土地・建物が資産という考えは都市部でも一部の話で、今や空き家の相続には、維持費や管理にかかるとの労力など多くのリスクが伴う。「実家をどうすればいいのか家族とじっくり話し合い、意思疎通を図っておくことが大切です」と三星さんは話している。



空き家の窓を開け、庭の落ち葉を掃除する大橋さん。「放っておくと傷んで、売ったり貸したりすることができなくなります」(福岡市内で)

くらし 家庭

絶やさない 国産素材たわし

魅力伝える展覧会あすから

身近な日用品・たわしの美しさを伝える展示会「たわしの魅力」が22日から、東京都台東区のギャラリーKAMANIで開かれる。国産の棕櫚を原料に熟練の職人が作った伝統的なたわしを写真や、棕櫚の原木や皮などを展示している。たわしの製造工程を、写真などを使って紹介するコーナーもある。



棕櫚は、ヤシ科の常緑高木。江戸時代から紀州(和歌山県)の重要な産物だった。樹皮の繊維が腐りにくく、伸縮性に富んでいるため、たわしやほうきなどの材料として重宝されてきた。

たわしの魅力を知ってもらいたい」と担当者は話す。27日まで。展覧会では、たわしの販売も行なう。問い合わせは、高田耕造商店(073・4007・1264)へ。

日目は、東日本大震災による子どもや親の心の痛みをテーマにしたシンポジウムを開催。救援にかかわった小児科医らが今後の支援などについて議論する。参加費5000円、学生1000円。1日目の講演「子どもの気持ちがよくわかる!魔法の法則!」と公開シンポジウム「快を広める」のみ入場無料。詳細は、同学会ホームページ(<http://www.jshsc.jp>)で確認できる。

子どもの心の健康考える

子どもの心などについて考える「日本子ども健康科学学会学術大会」が、12月1、2日に東京都文京区の東京医科歯科大で開かれる。医師らで作る「日本子ども健康科学会」の主催。1日目は、脳の働きからみた読み聞かせの効用、虐待の現状などについて専門家が語る。2

40代の自営業女性。東京の大学に通う2年生の息子が来年1年間休学すると言いました。4か月ほど語学留学し、後はインドや近隣を旅すると言います。息子は1年生の時、バックパッカーとしてインドを1か月余り旅をしました。その時に語学力不足を痛感して使える英語を学びに行くと決まっています。外資が乗り込んでくる時代、企業はアクティブに旅した学生を求めるとも力説します。

「休学して海外」望む息子

でも、春夏の長期休みにも海外に行き、国内で語学勉強や資格を取った方が、就職にはいいと思うのでは。うちで雇うなら、ふらふら遊んだ学生より地道に勉強した学生を採用します。息子はそれを田舎者の昔の考えといひ、海外さえすれば人間が大きくなると信じています。息子は考えが甘いと思うのですが、何度か息子と話をすればいいかわかりません。(K美)

人生案内

最相 葉月 (ライター)

海外を旅する学生が減っている昨今、たくましい息子さんだと思えます。時間とお金と意志があれば、ぜひ送り出してあげたいところですが、ただ、休学してまでとなると、たしかに心穏やかではいられませんね。本人の意志は固いようですが、経済面はどうなっていますか。自分で稼いだお金で行くんですかね。旅先でも働くつもりですか。間違いですか。とても大事なことが手紙には書かれていませんね。もし親のお金に頼るのであれば、条件を課すことが必要でしょう。休学によって発生する費用や旅費は本人の借金とし、返済方法や期限を定めてください。全上、定期的に連絡を入らせることも大切です。息子さんがいうように海外経験を重視する企業が増えていきます。ただ、会社には経験者が殺到します。数か月の語学留学なら、世界を旅したという事実より、そこで何を学んだかが問われます。息子さんは今、1間の猶予を必要とするのでしょうか。何を目的に旅するのでしょう。それを本が自覚しているかどうか。旅の価値は左右されるでしょう。実利的な面ばかり目を奪われることなく、息子の内面に目を凝らして判断なさってください。

「年齢時速」ただ今49キロ!

11月も半ばを過ぎ、年末を意識するようになった。新年のあいさつをしたのが、つい先日のように思える。時のたつのがなんと早いことか。勤務先でその話をすると、アルバイトの若い女の子が「それって、『年齢時速』ですよ」と笑った。10歳なら人生を時速10キロで進み、80歳なら80キロで進む。そんな時間感覚のこららしい。だから、年をとるほどに1

年が短く感じられるというのだ。私は時速49キロで走行中ということになる。結構な速度だ。何をしても「今」という瞬間が時速49キロで後ろにすっ飛んでいくのだから。そう考えたら、1分1秒が急に惜しくなってきた。休日に「食っちゃ寝」なんてもってのほかだ。私の半分のスピードで走っている若者にそのことを教えられたような気がした。思わず、見えないハンドルを握り直した。(埼玉県戸田市・荒川ゆかり 49)

実家を たたむ

空き家となった実家を手放すことに決めても、遺品や思い出の品の処分が苦勞することが多い。

東京都東久留米市に住む教員の男性(62)は父母を相次いで亡くし、空き家となった京都市内の実家を昨年相続。売却を予定しているが、遺品の整理に頭を悩ませている。大学教授だった父が残したのは大量の本。「廊下や階段にもぎっしりと本が積まれていました。他にも多くの日用品が生前のまま残され、夏休みに1週間ほどかけて整理したが、片付けきれってない。仏壇の処分も困った。東京の自宅への運搬を宅配業者に依頼したところ、運び出す前日になって「魂を抜きましたか」と業者から聞かれて驚いた。急いで地元のある寺に行き事情を話し、無事に運べたが、「片付け

買い手つくよう私物整理



かこんな大変だとは思いませんでした」と話す。三重県桑名市に住む自営業の男性(59)は、空き家になった愛知県の実家にあった仏壇が大きすぎて自宅に入らず、位牌だけを移した。仏壇は業者に頼んで処分してもらったという。「ようやく片付け、この夏、不動産屋に売却を依頼することができました」と胸をなで下ろす。

国土交通省が東京都と近隣の県、大阪府で行った「空家実態調査」(2009年度)によると、空き家となった持ち家の半数が、5年以上住人がおらず、「腐朽、破損あり」の状態だった。住人不在の家は維持管理が行き届かず傷みが進むので、片付けは早いにこしたことがない。

登記簿確認 相続円滑に

「いい」と話す。交通が不便な地域にある古い家でも、片付いていて手入れがされていけば、田舎暮らしを希望する人々の目に留まることがあるという。「『買ってくれる人がいたら片付けておいて』と放置している人が多いたが、私物が散乱したままの家に買い手はつきませぬ」

さらに、空き家になった実家を円滑に処分するためには、実家の登記を法務局などで調べておくことも大切になる。島根県の実家を売却した東京都の自営業の男性(53)は、売る前に実家の登記を調べたところ、50年以上前に取り壊した祖父名義の家が記されていたことに驚いた。「売ろうとした実家は登記されていなかったんです。そのことがわかったのが、父親の生前だ

ったため、スムーズに登記手続きができて売れたが、「放っておいたら面倒なことになるところでした」。土地や建物はきちんと登記されていないと、売却への相続手続きが行われなまま、父が亡くなった場合、その子どもはおじやおば、場合によっては子孫にも合意を得ないと相続することができない。地方の家の相続問題を専門に扱う司法書士の辻村潤さんによると、親戚から合意を得るために多くの時間や旅費などをかけることになり、実家を売ることを諦めて放置してしまうケースも多い。辻村さんは「できれば、親の生前に実家の土地や建物の状況を調べ、大切にしている物や仏壇などと合わせて、どうしたいかを話し合ってください。専門家の意見を聞きながら親の意思を遺言書にしておけば、トラブルを避けやすくなります」とアドバイスしている。

? ネットバンキング安全策



デジタル

インターネットバンキングを利用中に偽画面が表示され、打ち込んだパスワードなどを何者かに盗み取られる事件が相次いでいる。不正送金に悪用されるおそれもある。専門家は、パソコンのウイルス対策など、こまめな防御策を積み重ねるよう呼びかけている。

ネットバンキングは、金融機関の窓口には行かずに、自分のパソコンから、インターネットを通じて振り込みや残高照会などができるサービスだ。サービスを使うために、金融機関の専用ホームページ(HIP)に、まず口座番号やパスワードなどを入力する。

ネットバンキングは、金融機関の窓口には行かずに、自分のパソコンから、インターネットを通じて振り込みや残高照会などができるサービスだ。サービスを使うために、金融機関の専用ホームページ(HIP)に、まず口座番号やパスワードなどを入力する。ところが、いま流行中のウイルスにパソコンが感染していると、続けて偽画面

パスワードを盗まれないための心得

- ・ネットバンキングに接続後、別画面が立ち上がった場合、犯人が作った偽画面の可能性があるので金融機関に確認する
- ・金融機関には顧客のパスワードが記録されているはず。わざわざ、すべてのパスワードの入力を求めるのは不自然だ
- ・ウイルス対策ソフトを定期的に更新して備える
- ・パソコン内のソフトを最新版に更新する(加賀谷さんの話をもとに作成)

対安全」という対策はないが、できる限りの対策を取って被害を防ぎたい」とアドバイスする。

ウイルス対策ソフトだけでなく「インターネットエクスプローラー」などのHP閲覧ソフトやPDF形式の文書を読む閲覧ソフトなど、パソコン内のすべてのソフトを最新版にしておくことが大切」という。パソコンを起動したときなどにソフトの更新を促すメッセージが出ることもあるが、欠かさず実行しよう。旧型ソフトは安全面で不十分なことがあるからだ。

パスワード入力は慎重に

自動的に表示される。ハシステムのメンテナンスや機能の向上のためにお客様情報の再入力をお願いしています。偽画面と気づかず、送金に必要なパスワードや事前に設定している合言葉を打ち込んでしまうと、その情報が外部に勝手に送信され、何者かに悪用され

こうした画面でパスワードなどを入力した事例も364件確認されており、うち5件約420万円の不正送金被害も出ている。

ネットの安全対策を研究する独立行政法人「情報処理推進機構」調査役の加賀谷伸一郎さんは「金融機関のHPに続いて偽画面が表示されるのでだまされやすい」と話す。

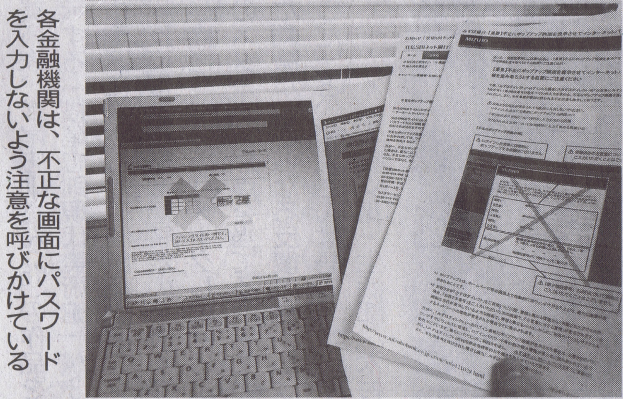
パスワードを盗まれないための心得

こうした画面でパスワードなどを入力した事例も364件確認されており、うち5件約420万円の不正送金被害も出ている。

ネットの安全対策を研究する独立行政法人「情報処理推進機構」調査役の加賀谷伸一郎さんは「金融機関のHPに続いて偽画面が表示されるのでだまされやすい」と話す。

パスワードのウイルス対策も欠かせない。最新のウイルス対策ソフトを必ず取り込んでおくことが大事だ。

また、取引ごとに新たなパスワードを発行する「ワンタイムパスワード」を採用する金融機関もある。変更しないパスワードを使う方式よりも安全性が高いとされる。こうした金融機関を選ぶのも一つの方法だ。



各金融機関は、不正な画面にパスワードを入力しないよう注意を呼びかけている

勝手に送信され、何者かに悪用され

勝手に送信され、何者かに悪用され

勝手に送信され、何者かに悪用され

勝手に送信され、何者かに悪用され

日本女子会館

日本女性学習

女性関連の書籍・資料をめた学習室「スペースWe learn(ウィーライン)」が、東京都港区の日本女子館内に、この秋オープンした。労働問題や思想史など、分野の書籍を幅広く閲覧できるほか、学習スペースとしても一般に開放する。

運営しているのは、女性生涯学習や次世代支援のための事業に取り組んでいる、益財団法人「日本女性学習

がん遺児奨学基金

がんで親を亡くし、経済に厳しい高校生らを支援する「アフラックがん遺児奨学金」の2013年度募集がまった。

対象は、在学中の高校生または来春の入学予定者。額2万5000円の奨学金卒業まで給付する。返還の要はない。特別支援学校の等部や、中等教育学校の後課程、専修学校の高等課程対象。募集人数は120人(年度の1年生60人、2・3年生30人)程度。学業成績